

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が8月8日(木)・8月9日(金)の2日間、大分で開催されました。当院からは院長、培養士3名、看護師2名が参加し、うち培養士2名が発表を行いました。

○ 今井和美

『無加湿インキュベーターは加湿インキュベーターと比較して胚発生を変化させない』

○ 上田鈴

『卵子成熟障害例に対して卵胞刺激により12~14mmまで卵胞発育させたのち、未成熟卵を採卵し、体外成熟培養—ICSI—HRC Cryo ETにて出産に至った1例』

学会を通して、最新の情報をたくさん得ることができました。不妊治療は日進月歩進化している分野なので、最先端の技術・知識を知り、業務に取り入れることはとても重要です。8月ということもあり、外はとても暑かったですが、それに負けないぐらい熱い討論が会場で繰り広げられていました。新しい方法と従来の方法を比較した発表も多々あり、双方のメリット・デメリットについて議論が白熱していました。その議論のほとんどは平行線をたどっており、まだまだ発展段階であることがうかがわれました。

余談になりますが、学会参加時間外に、少し観光をすることもでき、とても充実した2日間を送りました。

培養士 貴志 瑞季